

小学校第5学年家庭科学習指導案

日時 平成24年9月28日(金)

指導者 5年担任 教諭 宮本ルミ

1 題材名 「針と糸を使ってみよう」～見つめよう家庭生活～

2 題材について

(1) ねらいについて

本題材は、小学校学習指導要領家庭科の内容「(3)生活に役立つ物を製作して活用できるようにする。ア 布を用いて製作する物を考え、形などを工夫し、製作計画を立てること。イ 手縫いや、ミシンを用いた直線縫いにより目的に応じた縫い方を考えて製作し、活用できること。ウ 製作に必要な用具の安全な取扱いができること。」を受けて設定されている。

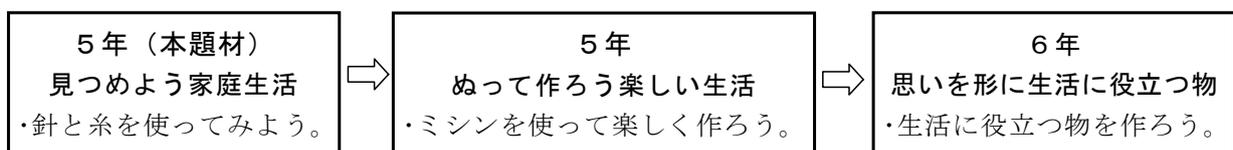
5年生の児童にとっては、初めて出会う教科でもあり、家庭科の授業に対する期待は大きい。家庭科は、生活している場が学習の場であるが、家族構成、ライフスタイルの多様化により、また、ものが氾濫している現在、児童によって生活経験や技能の差が大きく、多くの実践的・体験的活動をさせることが大切である。しかし、製作に対する子供たちの関心は高く、「早く裁縫箱を使いたい。」「何か作りたい。」と楽しみにしている。

初めての「生活に役立つものの製作」である本題材では、小物作りを通して、ものを作る楽しさや作ったものを生活に生かす喜びを味わうことをねらうとともに、裁縫用具の安全で適切な取り扱いを理解すること、ボタンつけや手縫いの基礎的な技能を身につけることをねらいとしている。生活経験の違いから生ずる基礎的技能的個人差に留意しながら、作る喜びを味わわせ、わくわくとした意欲を大切に扱っていきたい。

(2) 児童の実態について

※ 省略

(3) 本題材の系統



(4) 指導にあたって

- 導入においては、児童自らが課題を設定したり、解決していくことができるような実物見本や資料を提示し、学習意欲を高める環境を整えておくようにする。
- 課題が同じ児童同士でグルーピングをしたり、使う用具の配置を考えながら、学び合いを促したり効率的に作業が進むように環境を整える。
- 基礎的な縫い方の練習場面でも、簡単なネームプレートやフォトフレーム、オリジナル小物作りなどの製作を行い、なるべく数多くの経験をさせて技能を高めたい。また、それらの作品を生活の中で活用することで、学習したことが実生活に役立つ喜びを味わわせたい。最終的には、完成した作品の発表会を設定することで、お互いのよさやがんばりを認め合えるようにする。

ICT活用のポイント

①教師の活用ポイント

- ・実物投影機とプロジェクタで、作品や教師の手元を大きく見やすく拡大提示することで、説明や指示を徹底する。
- ・デジタル教科書のビデオを活用し、基本的な縫い方の理解を助ける。
- ・机間指導時にビデオを活用することで、児童の個人差への支援や学習活動の活性化を図る。

②児童の活用のポイント

- ・必要に応じてビデオをくり返し視聴し、縫い方の習得に役立てる。
- ・学習成果を伝え合う場面で、実物投影機で自分の作品を大きく映して説明をしやすくする。

3 題材の目標

- 小物などに関心を持ち、用具の安全な使い方がわかり、針と糸で簡単な縫い物ができるようにする。

家庭生活への 関心・意欲・態度	・小物に関心をもち、針と糸を使い、製作しようとする。 ・楽しみながら意欲的に小物の製作に取り組み、生活に生かす喜びを味わおうとする。
生活を創意工夫 する能力	・製作する小物やその製作計画について考えたり、工夫したりしようとする。
生活の技能	・簡単な縫い方ができる。 ・小物を製作することができる。 ・製作に必要な用具を安全に取り扱うことができる。
家庭生活につい ての知識・理解	・裁縫用具の名前や安全な取り扱い方がわかる。 ・簡単な縫い方がわかる。

4 題材の評価規準

家庭生活への 関心・意欲・態度	生活を 創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての 知識・理解
布を用いた生活に役立つ物の製作に関心をもち、製作し、活用しようとしている。	布を用いた生活に役立つ物の製作について考えたり、自分なりに工夫したりしている。	布を用いた生活に役立つ物の製作に関する基礎的・基本的な技能を身に付けている。	布を用いた生活に役立つ物の製作に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

5 指導計画（8時間取り扱い 本時は4時間目）

時	学習活動	指導上の留意事項	関	思	技	知	評価基準・評価方法
1	○裁縫用具の種類と使い方、安全な取り扱い方について調べる。	・用具に実際に触れさせながら、使い方や扱い方をシートにまとめることで定着を図る。				○	・裁縫用具の名前や安全な使い方がわかっている。 【観察・シート】
2	○基本の縫い方を知り、ネームプレートを作る。 ・基本の縫い方（玉結び、玉どめ、なみ縫い）の仕方を知り、練習する。	・児童に見本作品を提示し、活動への意欲を高める。 ・縫い方は、大きめの模型を使ったり、ビデオを視聴したりして、イメージ化を図る。	○			○	・ネームプレートに関心をもち、縫い方を進んで調べている。 【観察・シート】 ・玉結び、玉どめ、なみ縫いができる。 【観察・作品】
3	・ボタン付けの仕方を知り、練習する。基本の縫い方を使って、ネームプレートをつくる。	・全員の作品をつなぎ合わせてかべかけにし、教室に掲示することで達成感を味わえるようにする。				○	・ボタンを縫い付けることができる。 【観察・作品】
4 本時	○強度やデザインによっていろいろな縫い方があることを知り、練習する。 ・返し縫い、かがり縫いの仕方を知る。 ・フォトフレーム作りで縫い方の練習をする。	・いろいろな見本作品を見せ、強度やデザインに注目させる。 ・返し縫い、かがり縫いの仕方をカードやビデオで示し、理解を助ける。 ・前時のネームプレートの裏側がフォトフレームになるようにし、活用を図る。				○	・なみ縫い、返し縫いかがり縫いの縫い方の違いを理解している。 【観察・作品・シート】 ・楽しみながら意欲的に縫い方の練習に取り組んでいる。 【観察】

5	<p>○小物作りの計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作れそうな小物にはどんなものがあるか知る。 ・形や大きさ、どんな縫い方をするか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見本作品を提示し、見通しをもちやすくする。 ・製作計画表を作成させる。 ・学習した縫い方はカードにし掲示しておく。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・作りたい小物を自分なりに考えようとしている。 【観察・シート】 ・部分に応じた縫い方を考え、製作方法を記述している。 【観察・シート】
6 ・ 7	<p>○自分が作りたい小物作りに挑戦する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の初めに、製作計画表で作業を確認させ、見通しをもたせる。 ・縫い方のカード資料やビデオは、児童がいつでも活用できるようにしておく。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・裁縫用具の適切で安全な取り扱いができる。 【観察・シート】 ・計画表に沿って、縫うことができる。 【観察・シート】 ・ボタン付けや基本の縫い方を生かそうとしている。 【観察・作品】 ・なみ縫い、返し縫い、かがり縫いの縫い目がほぼそろっている。 【作品】 ・使い方や部分に応じた縫い方を考え、工夫している。 【作品】
8	<p>○学級で作品発表会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作った作品を紹介し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品紹介カードを事前に書かせておき、発表資料とする。 ・互いのがんばりや、作品のよいところを発表させる。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・小物の製作をふり返り、作品を完成させた喜びや生活に生かす喜びを味わっている。 【観察・シート】

6 本時の展開

- (1) 目標 ○返し縫いやかがり縫いのよさ（強度やデザイン）や縫い方の手順を理解することができる。
- 裁縫用具の安全な使い方に気をつけながら、進んで縫い方の練習に取り組むことができる。

(2) 展開

過程	学習活動、主な発問 (T) 予想される児童の反応 (C)	指導上の留意点・評価	備考 ICT活用
導入 3分	<p>1 学習課題について知る。 (T) フォトフレームを作りましょう。 (C) あの写真を入れたいな。 (C) どうやって作るのかな。</p>	<p>・前時に作成したネームプレートを生かして作ったフォトフレーム作品の見本を提示し、活動への意欲を高める。</p>	<p>実物投影機 プロジェクタ 作品見本</p>
<p>めあて 返し縫いやかがり縫いの仕方を覚えて、フォトフレームを作ろう。</p>			
展開 35分	<p>2 縫い方を覚える。 (1) 返し縫いやかがり縫いの縫い方を知る。 (2) 模型を使って、縫う感覚をつかむ。 (T) 模型で一緒にやってみましょう。 (C) 戻りながら針を刺すのだな…。丈夫に縫えるぞ。</p> <p>3 フォトフレーム作りをする。 (T) 部分に合った縫い方と手順を説明します。 (C) がんばるぞ。 (C) もう一度ビデオを見たいな。 (C) 玉どめの仕方を忘れちゃった…。</p>	<p>・ビデオを視聴し、針の運び方や布の重ね方を理解する。 ・教師の手元を拡大提示しながら、模型を使って児童も一緒にやってみることで縫う感覚をつかませる。</p> <p>徹底指導 (ポイント) ①縫い方のよさ、既習のなみ縫いとの違いをおさえる。 ②返し縫い、かがり縫いの針の運びを確実につかませる。</p> <p>・見本で布の合わせ方、返し縫いやかがり縫いを使う部分、作業の手順を確認して作業に入らせる。</p> <p>能動型学習 (ポイント) ①ビデオや見本は、必要な児童に自由に活用させる。 ②教師は机間指導をし、個への柔軟な指導ができるようにする。</p> <p>◆関心・意欲・態度 (観察) B基準 進んで縫い方の練習に取り組んでいる。 A基準 模様や縫い方を自分なりに工夫して練習に取り組んでいる。 <B基準に達していない児童への手立て> ○机間指導で助言、励ましを行う。</p>	<p>PC 模型 デジタル教科書</p> <p>手順カード 布 前時のネームプレート</p>

<p>終末7分</p>	<p>4 本時のまとめをする。 できた作品や感想を発表する。</p> <p>(C)返し縫いは難しかったけど…。丈夫に縫えることがわかりました。</p> <p>(C)きれいに縫えていて上手だな…。</p> <p>【言語活動】（設定の意図） グループや全体で作品を見せ合いながら、ぬい方の違いや気づいたことを話し合わせ、本時の成果の確認とまとめとする。</p>	<p>・児童の作品を拡大して見せながら、学習の成果を伝え合うようにする。</p> <p>◆知識・理解・（観察・作品）</p> <p>B基準なみ縫い、返し縫い、かがり縫いの違いやよさを理解している。</p> <p>A基準縫い方の違いの他に、それぞれの縫い方をどのように使い分けるかを考えている。</p> <p>〈B基準に達していない児童への手立て〉 ○見本作品と自分の作品を見比べさせ、修正させる。（課外）</p>	
	<p>5 次時の予告を聞き、後片付けをする。</p>	<p>・オリジナル小物作りの計画をすることを知らせ、意欲を高める。</p> <p>・針の確認等、安全な用具の取り扱いができるように指示する。</p>	<p>小物作品例</p>